

# 歩 -AYUMI-

一歩一歩進む 少しずつ目標に近づく

## 3年生の進路状況

### 就職者が大幅に減少

2023/12/15現在

	進学						就職					合計	
	4年制大学		短期大学		専修各種	専攻科	計	民間企業		公務員			計
	国公立	私立	国公立	私立				県内	県外	県内	県外		
普通科	4	13	2	4	9	32	2		1	1	4	36	
総合ビジネス科	3	20		3	18	44	4	3	2	1	10	54	
工業技術科	3	7			11	3	16	17		2	35	59	
合計	10	40	2	7	38	3	22	20	3	4	49	149	
	50		9				42		7				

単位：人

3年生の進路決定状況を12月15日現在でまとめました。今年度の3年生の特徴としては、就職をした人が大幅に減少したことです。

現在、就職内定率は100%となっておりますが、49人の生徒が就職の内定を得ております。昨年度の最終的な就職者数は公務員を含めて65人でしたので、16人の減となりました。近年、高校卒業後には進学を選ぶ生徒が増えてきており、本校もその傾向が強まってきたと考えられます。

一方、進学についてはちょうど100人が合格を得ており、国公立大学にも10人の合格者が出ております。総合ビジネス科や工業技術科からも国公立大学への合格者がおり、難しいからといって尻込みせず、チャレンジ精神を発揮してトライすることが大切だと感じます。

最近、大学をはじめとする上位学校の入学試験に関しては、総合型選抜（従来のAO入試）や学校推薦型選抜の募集定員割合が高くなってきております。これらの方式では、普段の学習状況や部活動、生徒会活動、ボランティア活動、探究活動や課題研究等の様子が総合的に判断されて合否が決定されます。毎日コツコツと努力を重ねている1、2年生の皆さんも、これらの入試に積極的に挑戦することを検討してみてください。

3年生の皆さんにとっては残り少ない高校生活ですが、進学はもちろんのこと、就職においても新しい学びが待っています。それに対応できるように、最後まで努力を継続してください。

### 入試小論文の対策に



最近の大学や短大の入試は多様化し、高校時代の成績や部活動、ボランティア活動等の状況を総合的に評価して合否を決める総合型選抜や学校推薦型選抜がかなり一般的になってきました。そのような入試では、小論文と面接の試験が実施されるケースが多くなっています。合格するにはやはりそれらへの対策が必要ですが、小論文対策に有効なのは過去に出題された小論文を研究することです。進路指導部では、それらの小論文の問題がまとめられた冊子を購入しています。また、対策マニュアルとして利用できる「螢雪時代」の小論文対策用別冊を用意しています。

小論文はたくさん書いて練習することが上達するコツです。これらの資料を有効に活用して、入試小論文の書き方をマスターしてください。

#### 1年生へ

#### 進路を具体化しよう

3年生の今頃は就職希望者はもちろん、進学希望者の多くも卒業後の行き先が決まっています。高校生活は思っているよりも短いです。早めに明確な志望を持つことが達成率を高めます。

#### 2年生へ

#### 本格的な準備に取り掛かる

1年後には多くの人が卒業後の進路が確定している時期です。3学期は3年0学期。ここからの時間をどう過ごすかが、志望の達成に直接つながっていきます。さあ、本格的に始めよう。

#### 3年生へ

#### 最後までしっかり学ぼう

高校生活もうほとんど終わりとなりました。でもこれで学びが終わってはいけません。就職する人も仕事を覚えなくてはなりません。最後まで学び続けて、次のステップでも大活躍してください。

# 今年度の就職活動を振り返って

## 職場定着就職支援員の土田建夫さんから

現時点において、就職希望者は全員内定をいただいております。そこで、今年度から本校の職場定着就職支援員として活動している土田建夫さんに、支援員としての仕事がどのようなものであったのかを振り返ってもらいました。

今年4月、職場定着就職支援員として初めて本校に着任しました。全てが初の経験でしたが、生徒の皆さんの就職活動に携わってきたこの約9ヶ月を振り返ってみたいと思います。

まず5月に今春の卒業生が入社した企業27社（雄勝校5社含む）の企業訪問を行いました。これは卒業生の入社後の勤務状況等の確認と企業の採用担当者を知ること、そして私自身を企業に知っていただくことが目的でした。

この時点での3年生の就職希望者は32名（県内13名、県外19名）で、昨年度の民間企業就職者数が52名（県内29名、県外23名）でしたので、全体で20名の減、県内就職希望者は16名の減と、極端に就職希望者が少ない傾向でした。私は一人でも多く県内就職を推進する立場ですので、これは私にとっては寂しい数字でした。

7月に求人票が公開されると、生徒の皆さんに求人票を公開する一連の作業が始まりました。約300件を超える県内企業の求人票整理は本当に大変でした。

夏休みには応募前職場見学が始まり、30名余りの生徒が希望をしました。3年部の先生方と連携して日程調整の作業を実施しました。

9月16日に採用試験が始まり、春の段階から県内就職の準備を進めてきた生徒19名は、職場見学をした複数の企業の中から応募先を決定して受験し、全員が内定をいただくという好結果でした。私も面接試験の指導に関わりましたので、この喜びを生徒の皆さんと共有できました。

一方、採用試験直前で県内就職に変更した生徒は、残念な結果となりました。また、公務員から民間企業へ希望を切り換えた生徒もいましたので、それらの生徒に対しては、私も相談に乗り、一人ひとりの要望を聞きながら企業を紹介して、職場見学にも行ってもらいました。さらに履歴書の書き方や面接の指導にも関わりました。受験した生徒も自信を持って試験に臨んでくれた様子で、11月中に全員内定をいただきました。私も手応えを感じていたので本当に嬉しかったです。

現在は、生徒の皆さんの希望を尊重しながら、その希望を叶えるために私なりに就職活動の支援が出来たという達成感を感じています。また本校と採用企業の架け橋になれたという気持ちで、初めての経験ながらやりがいを感じた時間でした。

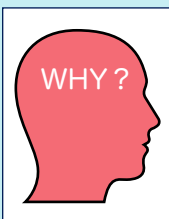
最終的に合計42名（県内22名、県外20名）の民間企業就職希望者全員内定という結果で、今年度の就職活動が一区切りとなりました。

生徒の皆さんの今後の飛躍を祈っています。



## 「WHY」が大切

文を書く際によく言われることは5W1Hを明確にするということです。WHEN（いつ）、WHERE（どこで）、WHO（誰が）、WHAT（何を）、WHY（なぜ）、HOW（どうした）という情報を網羅し分かりやすく伝えることが重要であるということです。さて、この5W1Hの中で、高校生である皆さんに注目して欲しいのが「WHY」です。



私たちは毎日、日々の学校生活を忙しく送っていますが、何の疑問もなく行っていることもたくさんあります。例えば、放課後には清掃当番が教室や廊下などを清掃しますが、このことに「なぜ、生徒が学校を掃除するのだろうか。」と疑問を持ってみたいかがでしょうか。そうすると、「自分の使った場所は自分で掃除するのは当たり前だ。」「海外では掃除は学校に雇われている人がやっている国もあるそうだ。」など、様々な意見が出て自分や他人の考えていることが分かり、周囲の人とやり取りをする中で自分の考えが深まっていきます。つまり、「WHY」の問いは自分を成長させてくれる、高めしてくれる重要な問いだということなのです。

普段、何気なく当たり前と思っていることに対して、「なぜなんだろう」という疑問を持つてみることによって、新たな視点が生まれ、それが思いもよらない大発展につながる可能性もあると思います。（菊地）